どあいの遊び方トリセツ

滑り台やブランコなどの遊具がないけれど、何をして遊べばいいの？日ごろ、どあいを遊び場にしている子どもたちに聞きました。

① どあいは自然が遊具

「よし、まずは探検しよう」。どあい周辺を拠点に活動している「どあい冒険くらぶ」が６月13日にイベントを開催。代表の大浜崇さんが参加した小中学生14人に声を掛けました。園内を探検しながら、子どもたちは池を見つけると思い切りジャンプしたり、身長の何倍もあるような木に登ってみたり。虫取りが好きな子は、虫取り網を片手にトンボを捕まえました。ここでは自然そのものが遊具です。これまでに40回以上、どあいで遊んだことのあるという穂高南小学校６年生の竹中千聖さん(11)は「私は特に木登りが好き。友だちと協力しながら高い木に登れた時はすごく楽しいです」と教えてくれました。

② 発想次第で遊びは無限

穂高西小学校５年生の木下八千穂さん(11)は「どあいが広くなってすごくうれしい。芝生が開放的なので、ケイドロ(鬼ごっこの一種)をしたらすごく盛り上がりそう」と遊ぶのを心待ちにしていました。どあいでは、発想次第でさまざまな遊びができそうです。危険な生き物に注意しながら、自分だけの遊び方を見つけに行こう！

危険な生き物に注意しよう！

スズメバチ
クヌギなどの樹液にくることがあります

ツキノワグマ
川沿いなどに現れる場合があります

ヘビ
湿った場所に多く現れます

サル
目を合わせず、刺激しないようにしましょう

参加者募集　水生生物観察会を開催します

拡張整備工事で新設した田んぼビオトープなどで水生生物の観察会を開催します。

日 9月12日(土)　9:00～11:30
場 黒沢洞合自然公園　費 無料
講 斉藤雄太(市職員)　定 15組(抽選)
申 7月23日(木)から８月18日(火)にながの電子申請サービス(右記２次元コード)で。

アカハライモリ

オニヤンマ

インタビュー 市民と成長する公園でありたい

NPO 法人どあい事務局
中田 信一郎さん(49)

NPO 法人どあい理事長
東本 博之さん(56)

黒沢洞合自然公園の拡張整備工事に合わせて、「どあい」のことが大好きなメンバー11人が昨年８月、NPO法人どあいを発足しました。現在、月１ほど公園の維持管理をしています。理事長の東本博之さんと事務局の中田信一郎さんに話を聞きました。

どあいの魅力を教えてください。

東本　現在、人が森と接する機会は少なくなっています。子どもから「虫取りに行こう」と誘われても、どこへ行っていいか分からないお父さんも少なくないのではないでしょうか。どあいは、まず森に親しんでもらう「森の入り口」の位置付けが大きな魅力です。また、さまざまな水辺の生き物が集まる点も良い点だと考えています。

どのような思いで管理していますか。

中田　さまざまな生き物が暮らしていけるよう、多様な環境を確保することを心掛けています。例えば草刈り一つ挙げても、均一に刈り込むのではなくあえて刈らない部分を残すなどメリハリを付けています。

利用者へメッセージをお願いします。

中田　(平成19年開園の)どあいの既存部分は20歳くらいですが、今回の拡張部分は生まれたての０歳です。10年、20年後にどんな姿になっているか楽しみですし、見守ってほしいです。公園内の生き物の採取は禁止されていません。常識の範囲内で楽しんでいただければ、この先も多様な生き物たちが暮らす公園であり続けると思います。

東本　どあいで遊んだ子どもが大人になった時に「子どもの頃にここでお父さんと虫取りしたな」と懐かしがりながら、子どもと虫取りしてほしいです。

東本・中田　市民の皆さんと成長していく公園でありたいと思っています。

NPO 法人どあいでは、公園内で見られる生き物や活動情報を随時、Instagramで発信予定です。下記2次元コードからフォローできます。

NPO法人どあい Instagram▶